

海外研修報告書(2008 年度)

研修者 : 柏木弘(生産デザイン学科准教授)

研修課題名:「現代フランスにおける繊維素材と美術の関わりの研究」

研修期間 : 2008 年 8 月 28 日(木)~10 月 27 日(月)

研修地 : パリを中心としたフランス各地、および周辺国

研修目的 : 繊維素材と美術の関わりについて考えると、大きく3つに分類することができる。ひとつは、絵画に描かれたり彫刻として再現された布。二つ目はキャンバスなど、絵画の支持体あるいは画材としての布。三つ目は主に20世紀に現れた、繊維素材それ自体が表現主題となっている作品である。このように、繊維素材と美術の関係は非常に深く、また多義にわたっている。今回の研修では、フランス国内及び周辺国にある数々の美術館の膨大なコレクションを見る中で主に上記の関わりを持つ美術作品を調べ、素材と表現の関係及び美術作品と展示の関係について考えることを目的とする。また、美術に限らず、繊維製品に施された装飾文様に関する資料を調査し、装飾デザインと美術の関係について考察を進めることももうひとつの目的としたい。

上記の目的で海外研修を実施した。研修期間が2ヶ月であったことと、研修先が一定でなかったので、日を追って訪れた美術館等を記述していくかたちの報告にするのが有効と思われるので、以下にそれを記す。

.....

2008 年 8 月 28 日(木):午前 11 時 20 分成田発、午後 4 時 50 分パリ着。予定していたパリ3区のエルゼヴィール通りにあるアパートに入居する。

8 月 31 日(日):ポンピドーセンターの美術館、センター内のギャラリーを見学、書籍部をチェック。

9 月 2 日(火):アパートがあるマレー地区に点在するアートギャラリーをチェックする。

主にシャルロ通り、サントンジュ通り、ヴィエイユドウトンプル通り、チュレンヌ通り、サンクロード通り、サンジル通りの画廊 12 軒を見学する。

9月3日(水):クリュニー中世美術館とパリ大学ジュッシウ校にある鉱物コレクションを見る。

9月5日(金):コニャック・ジェイ美術館、カルナヴァーレ美術館を見る。

9月6日(土):午前中、パリ北部郊外にある国際展示場で開かれているメゾンエオブジェという展示会に行く。世界最大級の日用デザイングッズの見本市である。夕方は、マレー地区にある数々の画廊がおこなうこの秋最初の一斉オープニングに行く。かなりの人出であった。

9月7日(日):カルティエ財団のギャラリーでセザール展を見る。

9月9日(火):装飾芸術美術館で特別展のナポレオン展、ヴァレンティーノ展、100%フィンランド展等を見学する。

2009年9月10日(水):朝、オルリー空港からビアリッツへ出発。

9月11日(木):バイヨンヌ、イササー、エスペレット等バスクの町を訪れる。バイヨンヌでバスク美術館を見学する。

9月12日(金):朝、ビアリッツを車で行き、スペイン北部のビルバオへ向かう。

9月13日(土):ビルバオのグッゲンハイム美術館を見学。ビスカヤ橋を見学。午後、サンセバスチャンに向かう。

9月14日(日):サンセバスチャンのチリーダ・レク美術館を見学する。その他海岸に設置されたチリーダの彫刻を觀賞する。サンセバスチャンからサンテミリオンに移動。

9月16日(火):フランス南西部のモンフランカン市にあるアーティストインレジデンスの事務局を訪問する。

9月17日(水):午後、ボルドーに入る。ボルドー現代美術館および、ボルドー装飾美術館を見学する。

9月18日(木):ボルドーからパリへ戻る。

9月19日(金):ブランクーシのアトリエおよび、ドラクロワ美術館を見学。

9月20日(土):パリ郊外のサンジェルマンアンレイにあるモーリス・ドニ美術館と考古学博物館を見学する。パリに戻り、マルモッタン美術館でクロード・モネの作品を見る。

9月21日(日):午後、オルセー美術館。

9月22日(月):朝から、オランジュリー美術館、ギュスターヴ・モロー美術館、ポンピドーセンターの国立近代美術館を見学する。

9月23日(火):レンタカーでジヴェルニーのモネの家と庭園を見に行く。帰りがけに、ゴッホゆかりの地オヴェールシュルオーワーズでゴッホの墓参りをしてパリに戻る。

9月24日(水):パリ北部郊外の国際展示場で行われているプルミエールヴィジョンを見学する。こちらも、世界最大級の繊維関係の見本市。

9月25日(木):夜、パレトウキョウというパリにある現代美術展示ギャラリーで行われた展覧会のオープニングに出かける。

9月28日(日):モンパルナス美術館を見学。セーヌ通りの画廊を見学。

9月29日(月):建築文化遺産センターを見学する。

9月30日(火):アールエメティエ美術館を見学する。

10月1日(水):ベルギー、アントワープの美術学校の卒業生たちの展覧会を見る。夜、A ネットの津村耕祐さんのインスタレーションを見に行く。そこで藤原大さんに偶然会う。

10月2日(木):朝、パリを出発しリールへ向かう。リールからレンタカーでルカトーカンプレジという町にあるマティス美術館に行き見学する。そこで、学芸員のオードリー・デダンクールさんに会う。その後、ベルギーのブリュージュへ向かう。

10月3日(金):ブルーミング美術館、メルミング美術館、ベギン会修道院を見学する。

10月4日(土):ゲントのバーク教会で祭壇画を見る。ゲント現代美術館見学。その後、フランス北部の町、ルーベの美術館を見学しパリに戻る。

10月5日(日):ケブランリー美術館に行くが、人が多くて見学を断念する。

10月6日(月):ルーヴル美術館で行われているマンテーニャ展を見学する。その後、アルキュリアルという美術品オークション会場の書籍部で美術書を物色する。

10月7日(火):午後、パリ市立近代美術館とケブランリー美術館を見学。ケブランリーでは日本の民芸展を見る。

10月8日(水):午後、ポンピドーセンター界隈の画廊約15軒を見学する。

10月9日(木):朝早く、新幹線でアンジェに行く。アンジェ城にあるアンジェの黙示録というタピスリーのコレクションを見学する。その後、アンジェ美術館、ジャンリュルサ美術館を見学し、夕方パリに戻る。帰宅途中、リュデュバックのジャンフルニエ画廊に立ち寄る。

10月10日(金):「ピカソと巨匠たち」展をグランパレ美術館で見る。夜はマティス美

術館学芸員の A・デダンクール氏と食事をする。

10月11日(土):セーヌ河の中州で、ジョルジュ・スーラが描いたことで知られる、グラ
ンドジャット島を散策する。

10月12日(日):パリ植物園に行く。

10月14日(火):朝、オルリー空港からニースへ出発。ニースの空港で予約していた
レンタカーを借りる。マール財団のコレクションを見学する。昼食後、ヴァンスのロゼ
ール礼拝堂(マティスの教会)を見学する。そのあと、アンティーブのピカソ美術館を
見学する。

10月15日(水):ニースのマティス美術館、ピオのレジエ美術館とヴァロリスで陶芸作
品展を見学する。

10月16日(木):午前中、ニース現代美術館に行き、ヌーヴォーレアリスト等、ニース
派の作家たちの作品を見学する。午後、新幹線でリヨンへ移動。

10月17日(金):リヨン国立美術学校に、イヴ・ロベール校長を訪ねる。学校内を見学
する。

10月18日(土):織物美術館、装飾美術館、印刷博物館を見学する。夕方パリに戻
る。

10月21日(火):午前中、ジャックマールアンドレ美術館でファン・ダイクの展覧会を
見る。ルロン画廊に寄る。午後、プティパレ美術館を見学し、夜は日本文化会館で開
催される「今日の日本デザイン:WA」展のオープングレセプションに出席する。

10月22日(水):アラブ世界研究所を見学。

10月23日(木):午前中、オルセー美術館を再度見学。午後、ピナコテークドパリでジ
ャクソン・ポロック展とジョルジュ・ルオー展を見学する。夕方、グランパレとルーヴル

で行われている現代アートの見本市 FIAC を見学する。

10月24日(金):ポンピドーセンターでジャック・ヴィルグレ展、未来派展、クリスチャン・ボンヌフォア展を見る。

10月25日(土):9月半ばから閉館していたパリのピカソ美術館が再開したので朝一番で見に行く。

10月27日(月):パリ発

10月28日(火):成田着

.....

以上、2ヶ月間の研修期間に60以上の美術館／博物館／そこで開催された特別展、50軒以上の画廊と3つの大型展示会を見学した。その中で、研究テーマである「繊維素材と美術の関わり」についてゆっくりと考察することができた。また、美術館、博物館以外にも教会や城などヨーロッパの歴史的建造物を訪れることができたのも大きな収穫であった。さらに、短期間ではあったが、そこで過ごした日常の中でも、その地域の生活文化と接することができ、大変有意義な研修ができたと思う。今回の研修の成果は、今後の授業や研究紀要、制作研究のなかで具体的に示して行きたいと思う。

2009.5.3 柏木弘